

# Shiroyama Style

## 修学旅行 in 沖縄

4月26日(木)から2泊3日の沖縄修学旅行。昨年のようなコロナ感染の心配もなく(何度も検温はしましたが)、大きなけが人や体調不良者もなく、予定通りの学習・体験ができました。

### 1. 平和学習 ガマ見学、比嘉涼子さん講話、平和セレモニー

修学旅行の地を沖縄にしている最大の理由は、「島人ぬ宝」の歌詞にもある『教科書に書いてあることだけじゃわからない』『テレビでは映せない ラジオでも流せない』ことを、自分の目と耳と肌で感じてもらうためです。チビチリガマで亡くなった命、シムクガマで助かった命。国のために死ぬことは尊いことだと信じさせた軍国教育。77年前の普通の中学生の様子を、今の普通の中学生が知る。

過去を学び、今を生きる中学生が、未来へと繋いでいく平和学習の集大成は、沖縄の地でなければできません。

「愛情」の対義語は「無関心」だと熱く語ってくださった風の会 比嘉涼子さんの言葉通り、世の中のことに関心をもって、行動に移せる人になってほしいものです。平和宣言の最後の一行『私たちが 平和に暮らせる未来を創ることを宣言します』のように・・・。

### 2. 民泊ふれあい体験

毎年の修学旅行での思い出 No.1 は民泊体験です。ということなら連泊でもっと思い出を深めてもらおうと、今年は民泊2泊のスケジュールでした。正直なところ、これには不安も大きかったのですが、離村式のときに話してくださった、『今、ウクライナで起こっていることが、77年前には沖縄で起きていました』という言葉をお聞きし、ホテルでは経験できない夜を過ごすことができたと感じました。なかには想像していたような体験ができなかった人もいたようですが、見ず知らずの他人のお宅に泊めていただき、手料理をふるまわれ、いろんな話を聞くというおもてなしは、ホテル泊ではなく、民泊でなければ経験できないことです。

### 3. マリン体験・文化体験

気温24℃、風4m/s、波やや高し。海で泳ぐことが初めての人には、ちょっ

と厳しい状況だったかもしれませんが、十分なマリンスポーツ体験ができました。バナナボートが沖合100mのところまで転覆した時には冷っとなりましたが、海水で目が痛くなったのも、シュノーケルでカクレクマノミを見つけたのも、サンゴで足に擦り傷をつくってしまったのも、琵琶湖ではできない体験です。

#### 4. 班別自主研修

紅芋タルトをお土産に頼まれていた人も多かったでしょうが、サツマイモが根腐れ病で紅芋タルトが売っていないとは・・・。その土地で生産されたものが土産になりますから、今年は、パッションフルーツととうきびタルトにしました。でも、優しすぎる人は、集合時刻に遅れるほどの買い物をして、両手いっぱいにお土産を抱えて沖縄県庁前広場に、まさに雪崩れ込んでいましたね。

ともあれ、家族や友達との旅行では味わうことのできない修学旅行になりました。



比嘉涼子さん講話 チビチリガマにて



平和セレモニー 読谷村役場前広場にて

### 校長の後然日記

### 思い出

修学旅行中、教師の宿舎はオクマプライベートビーチ&リゾート。このホテル、実は 35 年前に初めて沖縄旅行をした時のホテルだった。きれいなコテージ風のホテルに喜んだこと。でも、台風で帰れない客で溢れ、一泊目は別のホテルに行かされたこと。悪天候で、ビーチに出られずバドミントンをして過ごしたこと。思わず、帰宅後にアルバムを開いた。

思い出とは、時間がたつほど美しく蘇るものである。